

## ネギアザミウマの多発に注意 ～防除の徹底で被害を防止しましょう～

1. 病虫害名：ネギアザミウマ

2. 発生物種：ねぎ（秋冬どり）

3. 発生地域：全県

4. 発生時期：－

5. 発生量：多い

6. 注意報発表の根拠（現在までの発生状況と今後の発生予想）

(1) 8月4半旬に行ったねぎ（秋冬どり）の巡回調査（全県10地点）におけるネギアザミウマの被害株率は68.2%（平年36.6%）で高く、8月1半旬以降、平年を大きく上回って推移している（図－1、2）。

(2) 8月20日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、気温は平年並か高い、降水量は平年並か少ないと予報されている。

(3) 以上のことから、今後もネギアザミウマによる被害の増加が懸念される。

7. 防除対策

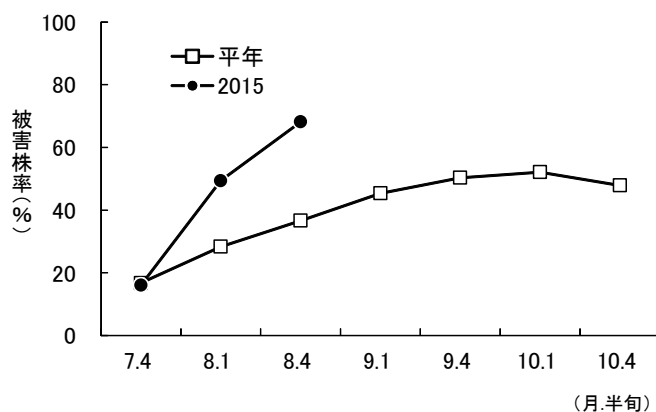
(1) 多発しているほ場では、表土中の蛹からの羽化や葉肉内の卵のふ化により、薬剤による防除後も発生密度が低下しない場合があるため、7～10日間隔で2～3回薬剤を散布する。

また、抵抗性出現回避のため、異なる系統の薬剤を選択し、散布する（表－1）。

(2) 薬液には展着剤を必ず加用し、葉先から株元まで薬液が十分付着するように畝の両側から丁寧に散布する。

(3) 隣接しているねぎ（夏どり）で本害虫の発生が多い場合は、発生源になるので薬剤による防除で密度低下を図る。薬剤使用の際は収穫前日数に注意する。

8. 資料



図－1 巡回調査における被害株率の推移（秋冬どり）



図－2 被害葉

表－1 ネギアザミウマの防除薬剤

系統	農薬名	希釈倍数 [散布液量]	使用時期	使用回数
a	ダイアジノン乳剤40	700～1,200倍 [100～300L/10a]	収穫21日前まで	2回以内
	マラソン乳剤	2,000～3,000倍 [100～300L/10a]	収穫7日前まで	6回以内
c	アグロスリン乳剤	2,000倍 [100～300L/10a]	収穫7日前まで	5回以内
	アディオソ乳剤	3,000倍 [100～300L/10a]	収穫7日前まで	3回以内
g	アドマイヤー顆粒水和剤	5,000倍 [100～300L/10a]	収穫14日前まで	2回以内
	アドマイヤーフロアブル	2,000～4,000倍 [100～300L/10a]		
	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍 [100～300L/10a]	収穫7日前まで	3回以内
	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍 [100～300L/10a]	収穫3日前まで	2回以内
	アルバリン顆粒水溶剤			
		ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍 [100～300L/10a]	収穫3日前まで
j	スピノエース顆粒水和剤	2,500～5,000倍 [100～300L/10a]	収穫3日前まで	3回以内
	ディアナSC	2,500～5,000倍 [100～300L/10a]	収穫前日まで	2回以内
1	ハチハチ乳剤	1,000倍 [100～300L/10a]	収穫3日前まで	2回以内

a：有機リン剤、c：合成ピレスロイド剤、g：ネオニコチノイド剤、j：マクロライド系剤、1：その他

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660  
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326  
 掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>